

# 統合国際深海掘削計画（IODP）会議報告書

提出年月日： 平成 21 年 01 月 27 日

氏名：EDP member（宮入、福原、浅沼、渡辺、佐久間）

会議名	第 8 回 EDP Meeting
期間（移動を含む）	平成 21 年 01 月 14 日～16 日
用務地（国・都市）	中国・上海市
目的	主要議題 1．Technology Roadmap 3.0 Draft の ED item 優先順位付け 2．Drilling Proposal の技術評価他 3．INVEST に向けた White Paper 作成について他
<u>会議内容及び報告事項</u> <p>第 8 回 EDP 会議は上海市にある Tongji 大学、海洋学部内の会議室で開催された。</p> <p>今回の会議の主要な目的は、前回ソルトレークシティの会議で、先送りとなっていた Technology Roadmap 3.0 Draft の ED 項目の優先順位付けであるが、IODP-MI の依頼による 2 件の掘削プロポーザルの技術評価や DRST ED プロポーザルの再評価などの審議事項の他、INVEST に向けた White Paper 作成などについての議論が行われた。</p> <p><u>Technology Roadmap :</u> 前回の会議で Drilling Proposal と ED 項目とのマッピングチャート（各 Drilling Proposal に対し各 ED 項目の重要度を C: Critical、I: Important、S: Some impact で表したマトリックス表）を基に優先順位付けを試みたが、この方法には、短期的な ED 項目が重視され、中長期的な ED 項目の優先度が低くなるという欠点があることが明らかになった。そこで、前回の会議での優先順位付けは見送り、今回の会議までに各 ED 項目の相互依存性を検討し、階層構造的関係を明らかにすると共に、STP の TR との連携を図ることとした。 今回、STP リエゾンの齋藤氏から STP の TR の紹介とその重要項目の ED 項目との関連付けの結果が報告され、TR の議論を進めるにあたって非常に有益であった。本件については、齋藤氏に感謝すると共に、今後とも連携していくと確認した(EDP Consensus 0901-10)。 また、事前に用意された叩き台を基に検討し、各 ED 項目の階層的關係を示すチャートをほぼ完成させた。このチャートは、優先順位付けとは異なるが、あるサイエンスニーズを達成するために必要な ED 項目とその階層的關係が一目でわかり、今後の技術開発を議論する上においても、ED プロポーザルの指針としても有用であり、当面これを優先順位表の代わりに使用することとした。今後は、メールを通じて調整し、TR Ver.3 を次回の会議までに完成させ、次回の会議で承認後すみやかに公開することを確認した（EDP Action Item 0901-12）。</p> <p><u>Engineering Testing Time on IODP Platform</u> ED プロジェクトにとっては、IODP Vessel での機器のテストは必要不可欠である。しかし、これまで、それらの要望を上げるシステムがなかった。前回、USIO より LWC のテストの要望書が EDP に提出されたことをきっかけに、まずそのプロセスを確立することとした(EDP consensus 0807-12)。今回、IODP-MI において Engineering Testing Time の要望を処理するプロセス（案）が提案され、その対象に Third Party Tool を追加するなどの修正後承認された（EDP Consensus 0901-07）。その内容は、テストの要望は IODP-MI が受け、必要に応じて EDP にそのレビューを依頼するなど前回の基本的な確認事項に沿ったものである。 また、このプロセスが承認されたことを受けて、前回 USIO から提出されていた LWC のテスト要望についてレビューを行い、EDP 委員の意見をまとめて IODP-MI に回答することを確認した（EDP Action Item 0901-15）。</p> <p><u>Drilling ProposalのReview</u> 今回、IODP-MI/SSEP より 2 件の Drilling Proposal について、その技術的レビューを依頼された。1 件目は掘削深度 8000m をターゲットとした 698-Full12 であるが、審議直前に高密度震探の解析の結果、掘削深度を 3000m とするととの連絡が入り、急遽本件に関しては今回審議しないことを確認した（EDP Consensus 0901-13）。2 件目は簡便な CORK 設置にかかわる 734 APL (Ancillary Project Letter) であるが、委員の意見をまとめ、IODM-MI に提出することを確認した（EDP Action Item 0901-14）。</p>	

#### DRST ED Proposalの再評価

前回、FY2010のEDプロポーザル3件の評価を行い、IODP-MIに評価コメント及びグルーピング結果を提出した。IODP-MIは、その評価コメントを提案者にフィードバックし、それに対する提案者の回答を得ている。今回、その回答に基づくDRSTの再評価をMIより依頼された。なお、早期に回答があったMMMについては、EDPでの条件付評価結果を踏まえメールによる再評価が行われ、1ランク高い評価に変更されている。DRSTについては、Lead Watchdogの田村氏が1ランク上げる内容の再評価結果をまとめMIに提出した。今回、田村氏欠席のため、その再評価結果がIODP-MIより報告され審議されたが、根強い抵抗があり意見がまとまらず、結局、専門家不在ということで、投票による決着を避け、IODP-MIに外部評価を得るよう薦めることとした(EDP Consensus 0901-16)。

#### INVESTに向けたEDP White Paperの作成について

INVEST Steering Committeeの要望により、INVEST会議までにEDPとしてWhite Paper作成することとなった。そのため、EDP Ocean Drilling Technology White Paper Working Groupを設立し、作業をすすめることとした(EDP Action Item 0901-08)。そのメンバーとその担当を以下のように決め、次回の会議までにそれぞれたたき台を作成することとした。

Bill Ussler (coordinator), Yoshiyasu Watanabe (deep water drilling), Sumio Sakuma (high temperature drilling), Hiroshi Asanuma (high temperature measurements), John Thorogood (seafloor drilling systems), Maria Ask (geotechnical measurements), Roy Wilkins (in situ measurements), Leon Holloway (improving core quantity and quality), and Lothar Wohlgenuth (ultra-deep drilling).

#### STPとの連携について

STPとの連携は、TR作成についてのSTP 齋藤氏の協力などにより深まったが、コアの質的回収率の向上に関する齋藤氏の助言により、科学掘削目的の障害となるコア採取の事例集の作成をSTPに依頼することとした(EDP Consensus 0901-10)。

#### IODP-MI FY2010 ED Plan

現在、IODPが進めているFY10 ED Planを支持することを再確認した(EDP Consensus 0901-09)。

#### IODP内における技術開発の協調体制について

今回、CDEXよりCDEX内部で行っている技術開発と今後の計画について紹介があった。その内容はEDPにとって初耳な事が多く、EDPが担当しているTRの議論に反映されていないなどの意見が多く出たため、IODP内における技術開発の協調体制に関する意見をまとめ、IODP-MI宛にレターを出すことになった(EDP Action Item 0901-17)。

#### その他

- 前回のEDP Meeting #7 Minutesが承認された。
- 今回のEDPメンバーの出席者は、日本：5名、米国：4名、欧州：4名、中国：1名。ビザの手続きが間に合わず、米国委員1名が欠席した。今回から米国新委員(John Tauxe, Roy Wilkins)2名が加わった。なお、田村氏の代理として次回から新委員として加わる佐久間氏が出席した。
- 3月16-19日、マイアミのSPCには、Bill UsslerをEDP代表として送る。
- 5月25-27日、ベルギーのSSEPにはMaria AskをEDP代表として送る。
- 中国代表Yen氏および福原氏は今回で任期満了となり、ローテートオフした。
- 次回EDP #9は、スエーデンのルーリエで2009年7月15-17日開催の予定。
- 次々回EDP #10は仙台で2010年1月13-15日の予定。

備考	ED : Engineering Development TR : Technology Roadmap
----	---

#### 事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等

今回の新規US代表者達に、EDP introduction bookletの冊子が支給されていたことが分かった。日本でも同様なパッケージがあると、新委員の導入にとても有用かつ時間短縮になると思います。